

地域経済動向調査報告書

平成 30 年度 下半期

<平成 30 年 10 月から平成 31 年 3 月まで>

平成 31 年 3 月

調布市商工会

<要旨>

全体のDIの分析から読み取れる市内小規模事業者の下半期の景況は、前年同期比では全体として売上の増加傾向を示しているが、採算面では業種間のバラツキが大きく、全体としては依然厳しい状況が続いている。下半期の水準としてすべての業種で「黒字」となったが、業況が「良い」とする業種はなかった。来年度上半期の見通しとしては、前年同期比では件数・客数増による売上増加により、製造業以外の業種で業況の改善を見込んでいる。下半期比では仕入単価の上昇にも歯止めがかかり、業種によるバラツキはあるものの、採算好転の傾向が見込まれている。資金繰り、借入について、下半期では悪化の傾向もみられたが、来年度上半期の見通しでは目立った変化はない。

経営上の問題としては、事業採算面の問題に次いで人手不足に関する問題をあげる回答が上位を占める。複数回答で前者については、「仕入（外注）単価の上昇」、「売上（取引）件数（客数）の減少」、「売上単価の低下・上昇難」の順に指摘されている。後者については、「従業員（含パート等）の確保難」、「熟練技術者（販売員）の確保難」があげられている。金融面をあげる回答は少なかった。

なお、本報告書でのDI（景気動向指数）は、調査項目ごとに有効回答数を分母として、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示している。具体的な算出方法は次のとおり。

$$DI = \frac{\text{増加} - \text{減少}}{\text{増加} + \text{不変} + \text{減少}} \times 100$$

1. 調査の概要

本調査は、当商工会会員である小規模事業者の業種構成比率を基に抽出した市内の製造業 4 社、建設業 6 社、小売業 10 社、飲食業 14 社、サービス業 16 社の小規模事業者計 50 社に対し、経営指導員および巡回相談員を通じ「中小企業景況調査票」への記入によって地域経済の動向を調査したものである。本報告書は、下半期（平成 30 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）の調査結果をまとめたものである。

2. 下半期の景況

下半期の景況を前年度同期（平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）と今年度上半期（平成 30 年 4 月 1 日から平成 30 年 9 月 30 日まで）との比較で調査した。また、一部の項目は下半期の水準についても調査した。

2.1. 売上高の動向

2.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3 月比	12.0	△ 25.0	16.7	30.0	28.6	△ 6.3
H30. 4～9 月比	0	△ 25.0	16.7	0	21.4	△ 18.8

H29. 10～H30. 3 月比では小売業、飲食業の増加が際立つ一方で製造業は厳しい傾向がみられるが、全体として増加を示す。H30. 4～9 月比においては飲食業、建設業が増加を示しているが製造業、サービス業では厳しい傾向がみられる。

2.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H29. 10～H30. 3 月比	8.0	14.0	6.3
H30. 4～9 月比	△ 2.0	8.0	0

売上を構成する要因別にその動向をみると、H29. 10～H30. 3 月比では件数・客数の面の増加を示すものとなった。H30. 4～9 月比でも件数・客数面の増加の影響が大きいものとなっている。

2.2. 仕入動向¹

	仕入単価
H29. 10～H30. 3 月比	△ 44.0
H30. 4～9 月比	△ 32.0

仕入単価の上昇（採算面では悪影響）を示す回答となった。H29. 10～H30. 3 月比より H30. 4～9 月比では改善が進んだものとみられる。

2.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3 月比	△ 6.0	△ 25.0	16.7	0	△ 7.1	△ 12.5
H30. 4～9 月比	△ 4.0	△ 25.0	16.7	△ 10.0	0	△ 6.3
H30. 10～H31. 3 月の水準 ²	20.0	25.0	66.7	10.0	21.4	6.3

H29. 10～H30. 3 月比では、全体として悪化の傾向を示すなか、建設業の好転傾向と製造業、飲食業、サービス業の悪化傾向があり、業種間のバラツキが大きい。H30. 4～9 月比では小売業の悪化傾向がみられる。H30. 10～H31. 3 月の採算の水準としては、全ての業種で「黒字」の傾向がみられた。

2.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3 月比	2.0	0	16.7	10.0	△ 7.1	0
H30. 4～9 月比	6.0	0	33.3	10.0	14.3	△ 12.5
H30. 10～H31. 3 月の水準 ³	△ 16.0	△ 25.0	0	△ 30.0	△ 14.3	△ 12.5

H29. 10～H30. 3 月比でみると、全体的に若干の好転を示してはいるが飲食業では厳しいものとなっている。H30. 4～9 月比では、サービス業で厳しい状況を示している。H30. 10～H31. 3 月の業況の水準については、建設業以外の業種ではマイナスで地域経済全体は厳しい業況にあることが読み取れる。

1 採算への影響の面から正負を表記した（「3. 次下半期の見通し」においても同じ）。

2 「採算（営業利益）」における「H30. 4～9 月の水準」は、「黒字」と答えた事業者の割合から「赤字」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

3 「業況（自社）」における「H30. 4～9 月の水準」は、「良い」と答えた事業者の割合から「悪い」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。過去との比較を問うものではない。

H30. 10～H31. 3月の業況の傾向を総じて分析すれば、H29. 10～H30. 3月比では全体として売上の増加傾向を示してはいるが、採算面では業種間のバラツキが大きい。

H30. 4～9月との対比では仕入単価の上昇傾向に落ち着きもみられるが、採算面では依然厳しいことがうかがわれる。H30. 10～H31. 3月の水準としてすべての業種で「黒字」となったが、業況を「良い」とする業種はなかった。

2.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H29. 10～H30. 3月比	△ 4.0	
H30. 4～9月比	△ 6.0	△ 8.9

資金繰り、借入難度について、悪化の傾向もみられる。

2.6. 人材

2.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3月比	△ 10.9	25.0	△ 16.7	△ 11.1	△ 25.0	△ 6.7
H30. 4～9月比	△ 8.7	25.0	△ 16.7	△ 11.1	△ 25.0	0
H30. 4～9月の水準 ⁴	△ 34.0	0	△ 33.3	△ 33.3	△ 30.8	△ 46.7

全体的に減少の傾向にあり、H29. 10～H30. 3月比、H30. 4～9月比いずれも建設業、小売業、飲食業で厳しい状況となっている。従業員の充足に関するH30. 4～9月の水準では製造業を除く他の業種で人手不足を強く示す結果となっている。

2.6.2. 外部人材（請負・派遣）

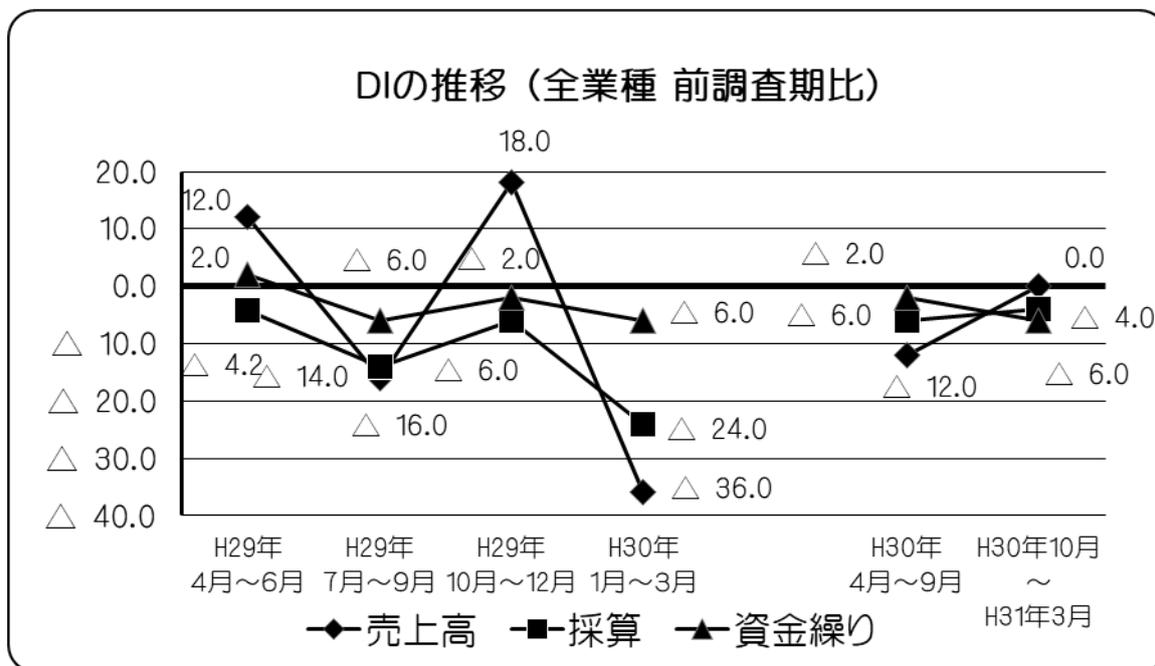
	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3月比	3.4	0	0	△ 33.3	0	20.0
H30. 4～9月比	6.7	0	16.7	△ 25.0	0	20.0

全体では目立った変化はみられないものの、小売業で減少が目立っている。

4「従業員（含む 臨時・パート）」における「H30. 4～9月の水準」は、「過剰」と答えた事業者の割合から「不足」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

2.7. 推移

全体のDI（売上高、採算、資金繰り）の推移は次のとおりである。なお、四半期ごとに調査した平成29年度の結果とは前提が異なることに留意されたい。



3. 来年度上半期の見通し

来年度上半期（平成31年4月1日から9月30日まで）の見通しを前年度同期（平成30年4月1日から9月30日まで）と今年度下半期（平成30年10月1日から平成31年3月31日まで）との比較で調査した。

3.1. 売上高の見通し

3.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H30. 4～9 月比	18.0	△ 25.0	33.3	20.0	14.3	25.0
H30. 10～H31. 3 月比	10.2	0	33.3	20.0	△ 7.1	12.5

H30. 4～9 月比で製造業は減少を見込むが、他の業種では売上増が見込まれている。H30. 10～H31. 3 月比では、製造業、飲食業以外は増加を見込む回答が多い。

3. 1. 2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H30. 4～9 月比	6.0	18.0	14.6
H30. 10～H31. 3 月比	10.0	14.0	16.7

今後の売上増の要因として、H30. 4～9 月比では売上件数・客数、売上数量の増が見込まれている。H30. 10～H31. 3 月比では売上単価・客単価の増も見込まれている。

3. 2. 仕入の見通し

	仕入単価
H30. 4～9 月比	△ 28.0
H30. 10～H31. 3 月比	△ 20.0

H30. 4～9 月比では仕入単価の上昇を見込む回答が多いが、H30. 10～H31. 3 月比ではその回答が減少しており、減少に歯止めがかかるものと見込まれている。

3. 3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H30. 4～9 月比	12.0	△ 25.0	0	20.0	0	31.3
H30. 10～H31. 3 月比	6.0	△ 25.0	33.3	20.0	△ 21.4	18.8

H30. 4～9 月比では、製造業が減少を見込む一方で、小売業、サービス業では増加を見込んでいて、業種間のバラツキが際立っている。H30. 10～H31. 3 月比では、消極的な見通しを示す製造業、飲食業と、好調を見込む建設業、小売業、サービス業でバラツキが大きい。

3. 4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H30. 4～9 月比	14.0	0	16.7	10.0	7.1	25.0
H30. 10～H31. 3 月比	10.0	△ 25.0	16.7	0	0	31.3

全体的には若干の好転が見込まれており、H30. 10～H31. 3 月比では悪化を見込む製造業を除き好調もしくは横ばいを見込んでいる。

H31. 4～9 月の見通しを総じて分析すれば、H30. 4～9 月比では件数・客数・売上数量の増による売上増加により、製造業以外の業種で業況の改善を見込んで

いる。H30. 10～H31. 3月比では仕入単価の上昇にも歯止めがかかり、業種によるバラツキはあるものの、採算好転の傾向が見込まれている。

3.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H30. 4～9月比	2.0	
H30. 10～H31. 3月比	△ 2.0	△ 4.3

資金繰り、借入難度については、いずれも目立った変化はみられない。

3.6. 人材

3.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H30. 4～9月比	0	25.0	△ 16.7	△ 11.1	△ 16.7	20.0
H30. 10～H31. 3月比	△ 4.3	0	0	△ 11.1	△ 16.7	6.7

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、製造業、建設業、サービス業で人手不足の改善傾向を見込んでいる。

3.6.2. 外部人材（請負・派遣）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H30. 4～9月比	3.2	0	16.7	0	△ 14.3	10.0
H30. 10～H31. 3月比	3.1	0	33.3	0	△ 14.3	0

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、建設業で改善傾向が見込まれている。

4. 設備投資

設備投資の動向について、今年度下半期の実績と来年度上半期の計画を調査した。

	実施 ／計画 して いない	実施した / 計画している						
		土地	建物 店舗	機械 設備 備品	車両 ・運 搬具	付帯 施設	I T 機器	福利 厚生 施設
H30. 10 ～H31. 3月 実績	82%	2%	4%	8%	4%	-	4%	-
H31. 4～9月 計画	84%	-	2%	10%	-	-	6%	2%

設備投資については H30. 10～H31. 3月の実績、H31. 4～9月の計画のいずれも約 8 割の事業所が実施も計画もしていない。また、実績と計画いずれにおいても、機械設備備品への投資が特筆される。

5. 経営上の問題点

下半期に直面している経営上の問題点（重要度の高い順に 3 つ以内）を調査した。

内 容 ⁵	1 位の問題点	1 位～3 位 の問題点
仕入（外注）単価の上昇	16%	32%
売上（取引）件数（客数）の減少	10%	32%
従業員（含パート等）の確保難	10%	26%
設備・機器・店舗の老朽化	4%	20%
売上単価の低下・上昇難	4%	20%
熟練技術者（販売員）の確保難	4%	20%
人件費の増加	8%	18%
人件費以外の経費の増加	10%	14%

事業採算面の問題に次いで人手不足に関する問題をあげる回答が上位を占める。「1 位～3 位」の回答で前者に関するものでは、「仕入（外注）単価の上昇」、「売上（取引）件数（客数）の減少」、「売上単価の低下・上昇難」の順に指摘されている。後者については、「従業員（含パート等）の確保難」、「熟練技術者（販売員）の確保難」があげられている。なお、金融面をあげる回答は少なく資金調達の面では大きな問題となっていないことがうかがわれる。

5 「1 位」、「1 位～3 位」のそれぞれ上位 5 位までの選択肢が含まれるように抽出し、「1 位～3 位」での上位のものから順に記載した。